

# Que Será, Será

VOL.21  
2000  
SUMMER



貝の声 深津千鶴

最近、自分のことをPTSD、正式には(心的)外傷後ストレス障害だと自己診断する患者さんが多くなっています。これは先日、NHKテレビで放映された番組の影響でしょう。これらの患者さんの多くは、筆者からみればとてもPTSDと診断できるような人たちではありません。小学生の頃、母親にひどくしかられた思い出があるとか、父親にぶん殴られたことがあるとあると訴えます。しかし、そのような出来事のとく以外は大抵の患者さんはごく普通にかわいがられて育てられているのです。PTSDの原因となるストレスは、日常的に体験するようないろいろなものではなく、戦争で捕虜になって拷問を受けるとか、突然大災害に見舞われて瀕死の重傷を負うとか、持続的な激しい虐待を受けて育てられるとか、といった筆舌に尽く

せない恐怖と苦しみを味わった人にみられるものです。現在日本で通常にみられるPTSDの原因となる事件としては男性では交通事故、女性では性的虐待がもっとも多いようです。現代精神医学がPTSDと診断する状態についてももう少し詳しく述べましょう。まず、生命の危険に迫るような重大な事件を自分が体験するか、他人が体験するのを目撃し、激しい恐怖感と無力感または戦慄におそわれるほどのストレスを経験することがこの病気の出発点です。そして多くの場合半年以内(6ヶ月を越すと発症遅延)に次のような症状が出現するのです。ストレス源となった重大な事件に関連するおそろしい思い出が自分の意志に背いて繰り返し出現したり、その事件についてのいやな夢を重ね重ねみたり、さながらそのいや

## パニック障害とPTSD

医療法人和楽会 理事長 貝谷久宣



## パニック障害とPTSD

な事件の中にいるように行動したり、その事件を象徴するような事柄にふれると激しく心が痛んで不安の身体症状(手が震える、息苦しい、冷や汗、胸が痛い、心悸亢進など時にパニック発作となつてみられる)が出現する、といったことが何度も何度もみられます。さらにまた、その重大な事件と関連する事柄を避けようとしたり、その事件を思い出すことができなくなつたりします。そして、好奇心や社交性が豊かで、人を愛し、人生に希望をもつて生きるといった情緒豊かな人間味が失われていきます。また、睡眠障害、いらいら、集中ができ

ない、おどおど、小さなことにすぐびつくりする、といった神経衰弱状態を伴います。このような状態が1ヶ月以上続き3ヶ月未満であれば、急性外傷後ストレス障害、そして、3ヶ月以上続けば慢性外傷後ストレス障害と診断されます。もちろんこのような診断が下された状態では、本人にとつて非常に強い苦しみが続く、多くの場合この病気のために社会生活に大きな支障を来しています。映画ランボーの主人公を思いだしていただくのがPTSDの具体的な理解にはもつとも適切でしょう。ここで一つ注意をしておかなければならないことは、激しい恐怖体験をした人がすべてPTSDを呈するわけ

ではないことです。PTSDにおいても与えられたストレスの強さと与えられた人の感受性の程度の違いに相互作用が存在します。阪神・淡路大震災のときにPTSDは有名になりましたが、実際にPTSDの診断が正確につく人はさほど多くはなかつたようです。マスコミの騒ぎすぎという感はぬぐい去れません。

さて、パニック障害とPTSDの関係はどうなつていいるのでしょうか? PTSDの患者さんでも時にパニック発作が見られます。とくに、そのストレス源となつたおそろしい出来事と関連する事柄に出くわした場合には、不安の身体症状が激しいとパニック発作として出現します。しかし、PTSDでみられるパニック発作はこの病気にいいては重要な症状ではなく、その主症状は外傷的事件の繰り返しによる再体験と精神衰弱状態および性格の変化です。PTSDでみられるパニック発作は、パニック障害にみられるような理由のない不意の発作ではなく、関連する誘発状況のみで発作が起き、パニック発作に対する予期不安はほとんどないか全くありません。このような状態をパニック障害とは診断しません。パニック発作があるPTSDとするのが適切

でしょう。このような患者さんはさほど多くはありません。筆者は現在、交通事故後にパニック発作を起こした男性と夜間路上で突然理由なく不良グループに暴行を受け重傷を負った青年をPTSDの診断のもとに治療をしています。このような患者さんは私の診ているパニック発作を示す患者さんの中の1%にも達しません。



ような状況は、けれども、ほとんど急性期のみにもみられるにすぎず、治療が進みパニック発作が起きないようになり、ある月日がたつと自然に消失していきます。パニック障害の患者さんのほとんどは、パニック発作の記憶そのものは簡単に脳裏から去らないといえます。しかし、このおそろしい体験がPTSD的に発展する人はごくまれであると云えるでしょう。

パニック障害はその病気の経過とともにいろいろな状態を呈します。パニック発作を起こす神経の過敏性がパニック発作症状としてではなく、過敏なところとしてでてくることがあります。また、パニック発作を起こすことにより神経全体が過敏になり、その過敏症状が精神的に現れ、感受性が異常に高まることがあります。発作がおさまつてくると腹が立つて仕方がなくなつたり、急に涙もろくなつたり、今まで何とも思わなかつた音楽に深く感動したり、購買欲が急に高まつたり、パチンコなどのギャンブルに魅了されるなど、人により様々な心模様を示すようになります。このような感受性の高まりが記憶の分野で賦活されることとあります。ある若い女性は、5年前、つきあつていた男性にお金を貸し、返却の要求に

対してひどい暴行を受けたことを、パニック障害発病後半年ほどして急に強い怨念の情とも絡り返し思い出すようになります。その暴行場面とその男性のおそろしい面もちがフラッシュバックとして出現するのです。彼女は腹の虫を押さえることができなくなり、5年前の出来事をその男性の母親に訴えに行きましたが、あまりにも昔の話でその母親は何のことかとついに理解できず、彼女を追い返してしまいました。それは彼女の激昂をますます高める結果となつてしまいました。パニック障害でみられたこのような外傷的事件を繰り返して再体験するという点は、PTSD的な症状ということができるでしょう。

以上述べましたように、パニック障害とPTSDにおいては臨床的な類似点が多々みられます。また、最近の脳研究において、PTSDでもパニック障害でも海馬の変化が指摘されていることは注目に値します。しかし、それでもパニック障害とPTSDは異なつた病気であることは間違いないです。原因も治療法も予後も異なつています。筆者は、パニック障害の患者さんが自分はPTSDだと自己診断をし、原因ストレスを引き起こしたと自分流に解釈して周囲の人々に怨念を持つことは避けてほしいと思つています。

## 鎌倉行動療法体験記

中井ゆかり



今から1年半程前の平成10年10月16日、私はいつもの様に仕事場へ向う為に車を走らせていました。そして渋滞にはまっていた内に突然体と心と頭の中に、竜巻のようなものが襲って来て、何が自分の中に起きたのか、心と行動が一致せず、気が狂って死んでしまいそうな不安と恐怖で、事故でも起こし兼ねない状態の中、必死の思いでなんとか安全な場所に車を止めて、婚約者に携帯電話で連絡する事が精一杯でした。何度も救急車を呼ぼうと思ひ、携帯電話を冷たく汗ばんだ手で握り締め、ひたすら車の中で恐怖と戦っていました。もう駄目だと思った時に彼が駆け付けて来てくれて、心療内科のある病院に到着した時は、全身の力が抜け、車イスで診察室に行き、診断名は過呼吸症候群でした。帰りに出口まで、付き添って下さった看護婦さんから、不安神経症かもしれないと、助言を頂きました。この日から、乗り物や外出等が困難になり、新しく出発した楽しい生活に、暗い霧が立ち込め、あの恐怖に対して恐怖の毎日でした。見知らぬ土地に越して来て数週間たった私は、電話帳で近くのKクリニックを見付け、通院してみる事にしました。初診の日の診断名は、心的外傷後ストレス障害によるパニック障害、及び、アダルトチルドレン(AC)でした。ACは病気で無いに

しても、2週間の間に病名が5つ付き混乱しましたが、「PDは2週間で良くなります」という先生の言葉に安心していました。

初診の日から「悲しみの再体験」という、本当の自分らしく生きて来れず、心に傷を負ったもう一人の自分と会話し、傷を癒して行く作業が始まりました。当時の私は遡る事3年間、精神的にも肉体的にも深い傷を負い、その傷も癒えぬ内に、今度は、家族の問題で、更に心に大きな傷を抱え、深く絶望していた時期でしたので、後に述べます、ミーティングでそれを吐き出せた事は、当時の私には良い機会だったのかもしれない。しかし、肝心なPDに関する情報が少なく、個人的に専門書を読みあさっていたため、先生からあまり読まない様にと注意を受け、そして、婚約者との別居や生き甲斐として来た音楽の仕事を変える様に勧められました。仕事は以前から寿退職する予定でしたが、とても複雑な気持ちで一杯でした。通

院して3ヵ月経った頃に、前から勧められていた、その「ACミーティング」に数回参加し、5回目位の時には、先生から卒業の言葉を頂きました。私は家族に対して恨んでいた訳では無かったので、憤りは癒しつつありました。しかし、そこではいくつかの約束事があり、「AC同志仲良くしない」「話したくない事はパスしていい」「ここでの事は家族や誰にも話してはならない」等でしたが、話せない人を責めたり、親に対して理解を示す発言をするなど反論されたりと、先生の言動に矛盾もあり、普段の診察内容も、話してはいけないと言われていました。疑問を感じつつ孤独な日々を送っていました。そして体調に変化が現れると、新しい病名と訳の解らない薬が増えて行き、またACの問題に戻ってしまうという状況で、心身共に疲れ果て、この先どうなってしまうのか、悪い方へ考えが浮かんで来る様になり、死と背中合わせの毎日でした。それでも、前向きに頑張っていました。その矢先に、今度は解離性多重人格障害の疑いがある様だと診断され、魂が抜けて行きそうである言葉が、魂が直して、またAC作業のやり直しと、幼い頃の嫌な記憶をもつと想い出し、ノート一冊分書いて来る様にと宿題を出されましたが、先生に「もう催眠術でも架けて頂かないと想い出せません。」と

虫の声で訴えました。実父は幼い頃の私に対しては、優しくなりたい思いが多く、両親がいなく寂しい思いはして来ましたが、亡き祖母や祖父に大切に育てられ、幸せだったと感謝して生きて来ました。自分なりに悲しみは浄化しつつありました。作業を10ヵ月間続けて来ましたが、もうボロボロで死んでしまいたいと思いましたが、どうせ死ぬ位なら、もう一度別の病院で頑張ってみようと思ひ、持っていた本で調べて、アゴラ会の日さんに、相談に乗って頂き、熱くACクリニックを勧められて、昨年の9月10日に初めて、ACクリニックの扉を開けてみたら、病名も何もかもが別世界でした。2回目の診察の日には、1年ぶりに一人で何駅も電車に乗る事が出来、クリニックのある駅に辿り着いた時は、涙が止まりませんでした。外出する時は友人から教わった「コモエスタ赤坂」と「365歩のマーチ」の詩で励まされ、自ら、PDの本に目を通し理解してくる友人や、パソコンで情報を調べてくれた友人に出会いました。PDの事を告白して、辛い思いをした事もありましたが、逆に素敵な友人達や世界が広がり、K先生や、婚約者に支えられ、色々な方々から励ましを頂き、今年4月7日の鎌倉に行く、行動療法に参加する勇氣を持てるまでになりました。そして、いよいよ当日、少し

不安を抱えながらも、二方手な電車(しかも急行)も、楽しくお喋りしている間に藤沢駅に着き、江の電に乗り換え、海沿いを眺めながら、無事鎌倉に到着し、海と山が一望出来る、レストランのテラスで潮風に吹かれながら、楽しく昼食タイム。湘南の海のように、皆さんの笑顔が輝いていました。ティータイムの時に、先生方のお話と、患者さん一人一人のお話を生の声で聞かせて頂き、独りでは無いのだと、改めて勇氣付けられました。そして次は、桜の花を見ながら鎌倉山登山、30分程汗を流し、息を切らせながら、それぞれお話をしたり、楽しみながら登り切りました。先に到着していたK先生は、人の家の庭の中を覗いて、皆さんから注意されたりして「笑行動療法という事を忘れてしまいうような位、遠足の様に楽しい一日でした。K先生やカウンセラーの先生も、私達と同じ目の高さで接して下さいました。私は心の中に花が咲いた様な気持ちになりました。帰りも無事に帰宅する事が出来ました。後日「POCO A POCO」のCDを聴き、感動と同時に、心が切なくなるほど暖かいものを感じました。自分を信じ人を愛し、許し合い支え合い、感謝し、ゆつくりと、自然体で生きる事の大切さを、パニック障害が教えてくれました。

# 香道

文学散歩(十五)

御家流桂雪会理事長

熊坂久美子

楊貴妃画像(著者所蔵)



霓裳香 桂の雪 吉田京子組

帝	石帝	羅國
桂の枝	宋女	真南蛮
銀の橋	月待宵	真那賀
虹の裳	紫雲	佐曾羅
霞の裳	白妙	伽羅
後段	萬歳染	伽羅
三包	お城にて	新伽羅
二包間		
試一包		
皆中		
羽衣		

霓裳羽衣とは虹のように美しいうす絹の裳裾(ロングスカート)と鳥の羽で作った仙女や天人の着る衣裳の事です。(霞は透明なスカーフ)今夜は暑さ凌ぎに涼しい夜空を唐の玄宗皇帝と一緒に眺めることに致しましょう。

ある年の八月十五夜、玄宗皇帝は夜空を眺めておりましたが、侍者の道士のすすめに従い手に持っていた桂の枝を空にかけると忽ちそれが銀の橋となり帝は月宮殿へと導かれます。そこでは美しい仙女達がきらびやかな鈿環(かんざし)をゆらめかせ、虹のようになうす絹の衣裳をひるがえしながらゆるやかに舞ってお

りました。この幻想的な美しい曲の調べに帝は深く魅せられ、地上に戻ってから楽士達に記憶するままをうつし教えて出来上がったのが、霓裳羽衣曲と云われております。

中国五千年の歴史の中には数えきれぬ程沢山の皇帝が現れますが、その中で日本で最も知名度の高い皇帝が三人あります。一人は万里の長城を築いた秦の始皇帝、一人は清朝のラストエンペラー、そしてもう一人がこの唐の玄宗皇帝で、白楽天の詩「長恨歌」によって楊貴妃とのロマンスを詠われた帝です。

玄宗(六八五―七六二)は悪名高い則天武后の孫として洛陽で生まれましたが、悪政を改め(クーデターなど)一寸荒っぽい事もしましたが七世紀から八世紀にかけて唐朝第六代皇帝として中国に治世を行い、数十年間の天下太平の世を築いた名君でした。

晩年は楊貴妃に溺れ「安祿山の変」が起りその為苦難の時を送りますがその壮年期は盛唐と呼ばれて繁栄し、この頃日本からも山上憶良、阿部仲磨呂、吉備真備等が渡唐しています。玄宗は多能多才な帝で騎射にもすぐれ又音律や天文学にも通じていました。殊に音楽を好みよく理解した

帝であったようで、「梨園」を設立し楽士達を養成しました。現在でも歌舞伎など演劇の世界を「梨園」と呼ぶのはここから興った事です。

ある時玄宗は木蘭の盛りに貴族達と酒宴を開いておりましたが、この日玄宗は少々不機嫌でありました。ところが酒に酔った楊貴妃が立上ってこの霓裳羽衣曲を舞うと忽ち上機嫌になったといひます。

これ程愛したこの曲を玄宗が初めて聞いた「八月の夜」を香りで表現したのがこの作品です。暗い夜空にかかる一筋の銀の橋、目もまばゆい月宮殿、星とたわむれるような仙女の舞、夢幻の中に聞いたメロディを記憶して来たのですから玄宗はよほど鋭い音感の持主だったのでしょうね。――曲の調べは西涼から伝った古代インド(婆羅門)の調べと云われています――

この天上の音楽を皆さんも心をひそめて聞いて(嗅いで)ほしい、というのがこの作者の願いであります。天上界の美を表現する為に後段は全部「伽羅」を用いています。遠い遠い世の人達が語り継いだこの華麗なエピソードを香りはどのようにうつつし出してくれるでしょう。

# パニックの認知療法

— 安全弁をはずす —

井上和臣

バブルの崩壊から阪神淡路大震災、地下鉄サリン事件、そして最近の十七歳の連続する残虐な犯罪と、残念なことに、「世界は危険に満ちている」ことが実感される時代になつてきました。それに呼応して、「安全」への願いが止まることなく募ります。自分と家族の安全、それは身体的なものはもちろん、精神的にも、経済的にも十分に保障される必要があります。

「危険」を自覚することは不安をもたらします。ですから、安心したければ、「危険」に直面しないように慎重に行動するしかありません。「危険」を回避することが至上命令になります。

パニック障害に限らず、およそ不安に関連する「心のつぶやき(認知)」は「危険」をテーマにしています。

パニック発作に苦しむ人は、通勤電車に乗ることができません。コンビニエンス・ストアで並んで待つことを考えると、気が遠くなりそうです。助けを求めようのない高速道路は延々と続く地獄です。ですから、電車に乗らないこと、レジで並ばなくても

すむ時間帯を選ぶこと、一般道路の不便を我慢することが必要に思えてきます。

「回避」という安全弁が常態化します。極端な場合、家を一歩も出ることができないまま、毎日が過ぎていきます。安全は保障されたものの、その人の「生活の質」は回復しないままになります。

安全弁がどのくらい緻密に設定されているか、デパートで買物ができない雫子という女性に登場してもらいましょう。

もちろん最初の安全弁は、デパートに行かずにすませることで、デパートに行かなければ、パニック発作に見舞われることもないからです。

「第一の回避」です。

そして、どうしても行く必要に迫られたとき、雫子は仕方なく人ごみの少ない時間に出かけるでしょう。ところが、そのとき、発作の最初の兆候が彼女を襲います。突然のめまいに彼女は必死にその場を離れようとしています。人ごみから遠ざかることができれば、少しは楽になるはずですが、「第二の回避」です。

しかし、もつと厄介な安全

弁があるのです。逃走することも不可能なとき、雫子は手近にあるものにつかまって、最悪の事態を避けようとして、ごく自然に行われる、彼女も自覚していないような行動です。「第三の回避」、もつとも微妙な回避です。

パニック障害の認知療法は、「回避」という安全弁をはずしてみることを提案します。

めまいを自覚したとき、雫子には「倒れてしまうかもしれない」「そのまま死んでしまうかもしれない」という

「心のつぶやき(認知)」が見られます。そのために、彼女は不安にもなり、「倒れないようにしよう」と、何かしつかりしたもので身体を支えようとして、彼女の安全はこれで確保されたことになりました。

しかし、その一方で、彼女の「心のつぶやき」は検討されないまま残ります。短期的には安全が保障されたとしても、長期的にはいつまでも不安に悩まされることになるのです。

それでは、「心のつぶやき」を検討するにはどうすればいいのでしょうか？

実験をすることです。リス



クを有する行動を試みるのです。

雫子はめまいを感じたときに、何かにつかまるのをやめて、本当に倒れてしまうのか、本当にそのまま死んでしまうのか、自分で確かめてみる必要があります。

この実験が容易でないのはもちろん理解できます。しかし、不安と、その背後にある「心のつぶやき」の呪縛から解放されるには、たとえ一分間でもいいから、何かにつかまらずに、「心のつぶやき」に誤りがあるかどうか、検討してみることで、

実験の結果はそのつど記録してください。「今にも倒れそうだな」と思ったとき、何分間、物に寄りかからずにいられたか、その結果、倒れてしまったのかどうかを、用紙に書きとめるのです。

「倒れるかもしれない」「そ

のまま死んでしまうかもしれない」という雫子の心のつぶやきは、少しずつ修正されていくことでしょう。

できあがった実験の記録は、あなたが危険に挑戦しながら得たものですから、他のどんな人の激励よりもあなたを納得させてくれるはずです。

「安全弁をはずす」という実験が、回避のために制限されていたあなたの行動範囲を拡大させ、あなたの「生活の質」の回復に役立つはずですよ。

認知療法に関連した情報は、「日本認知療法研究会」のホームページから得ることができます。ぜひ一度お訪ねください。

URL <http://www.naruto-u.ac.jp/~kinoue/jact.html>

井上和臣略歴

- 一九七七年 京都府立医科大学卒業
- 一九八〇年 京都府立医科大学精神医学教室助手
- 一九八六年 京都府立医科大学精神医学教室講師
- 一九八八年 米国ペンシルベニア大学認知療法センター留学者
- 一九八九年 京都府立精神保健総合センター所長
- 一九九〇年 鳴門教育大学人間形成基礎講座助教授
- 一九九八年 鳴門教育大学人間形成基礎講座教授 現在に至る

● シリーズ 家族17 ●

## 少年たちが変だ

— 父性性について考える —

岩館憲幸



この連休は相次ぐ少年の凶悪犯罪に、日頃心理臨床に携わっているながら何も語れずにいる自分にいささか落ち込んでしまいました。

新聞各紙は連日こぞって事件の経緯を報道、少年のこれまでの家庭や学校における生活行動について、有識者による分析とコメントを加えた解説記事を掲載しておりました。その中で目立ったのが父親の姿がよく見られないという指摘でした(5月13日付読売新聞朝刊の、争点討論『17歳の暴発』何故相次ぐ』で精神科医M氏は、「父親の心理的不在はものすごい現状だ」と述べている)。このシリーズで、前回私も、不登校事例に、父親の姿が一向に見えてこないと申しました。その矢先に続発した想像を絶する少年達の非道極まりない残酷な凶悪犯罪でした。これら加害少年たちには、いずれも己の欲望や攻撃破壊衝動の赴くまま行動化させてしまっている点、人の命を何の感情も交えず平気で奪おうとしたばかりかそのことで全くといっていい程、罪悪感を見せていない点

など、極めて共通したところがありました。

しかし私が一番気になったのは、やはりこの少年たちの父親のことでした。父親は少年にどのように関わってきたのか、父親と母親の関係性はどうか、父親と母親の関わりはどうだったのかさっぱり見えません。ということでした。

人は生まれて1、2年、少なくとも乳幼児期は、母親もしくは母親に代わる養育者に全面的に頼って、いわば共生的に密着することでつがなく育っていきます。物心がつき、周りへの関心が広がってきた頃、将来社会でちゃんと自立し生きていけるように、善悪の判断基準や社会的ルールの基本が教えこまれます。それがしつけであります。

乳幼児を生理的・心理的に満たし育てていくのが母性性だとするならば、事の善し悪しの判断を誤らせない正義感、日常生活で欠かせないマナーの基本、感情と欲求の統制可能な自制心、社会生活を送る上で決して忘れてはならない社会のルールや公德心など、社会人としての資質を教え込むのは父性性ということ



## フクロウ博士の智恵袋

## エアロビクスがパニック障害に効く!

先月、米国精神医学会に出席した折、ドイツはゲッチンゲン大学からきていた友人の精神科医から興味深い話を聞かされた。クロミブラミンという薬を与えられた患者15名、偽薬を与えられた患者15名、薬なしでエアロビクスをした患者16名のパニック障害の病状を10週間にわたって比較したのじゃ。エアロビクスの方法は、はじめの1週間は6.4Kmの道のりを3~4回は歩くだけ、次の1週間は数分ずつランニングをしては歩くといったやり方、次の4週間は

ランニングの時間を徐々に増やしていく、最後の4週間は休みなくランニングだけで完走するという方法をとったそうじゃ。1週間に3回以上はこの運動をすることにした。その結果は!? なんと驚く事なかれ! ジョギングを最後までやり通した患者さんは偽薬を飲んでた患者さんよりも明らかにパニック障害が改善したのじゃ。ただし、エアロビクス群は本当の治療薬(アナフラニール)を飲んだ人より改善率は多少低めであったということじゃ。この研究では、

エアロビクスを本格的にやったのは4週間にすぎず、もっと長く続けなければエアロビクスは薬より副作用のない良い治療法となる可能性が強いことが推定されますぞ。みなさんも心機一転明日からジョギングをしたらいかがであろうか? 前回のこの欄で、酔を飲むとパニックによいことを示したが、酔もエアロビクスも要するに好気性解糖を促すということじゃ。



シリーズ 家族17

## 少年たちが変だ

— 父性性について考える —

になります。

先日、朝の人気ドラマ「私の青空」で、息子「太陽」が、父親「健人」の家での夕食時、母親「なずな」に見放されたと思ひ込んで、「僕はお母さんは嫌いだ」と口走ったのに対して、お母さんに謝るまでは食べてはいけなさと、母親の家の方角に向かって頭を下げて、ごめんなさいをいうまで食事をとらせなかった父親健人の断固とした厳しい姿勢が印象的でした。それは太陽にとっては、それまで母親との強いつながりで育まれてきた彼が、初めて父親の厳しさを全身で受け止めようとした場面でもあったのです。

実際私は身近に、母子家庭で息子さんを大学に入れ、早々と自立させた「なずな」を思わせるようなしつかり者の母親を知っております。この方は子育てに関しては母性と父性性を巧みに使い分けていたように思います。或いは息子さん自身が、自分のために頑張り続ける母親を、少しでも早く支えられるような男性性を身に付け自立しなければと、自然に動機づけられ



ていったのかもしれない。でもそのことを可能にさせたのは母親が息子さんに対して、自ら父親的母子分離の作業をきちんと果たし得たからに違いないのです。

最近の少年達の凶悪犯罪から、今家族にとって最も早急に求められると感じさせられたのは父親が子供に対して父親らしく振る舞うこと、林道義氏ではありませんが「父性の復権」であります。

乳幼児期からのしつけをしつかりと行うためには、とかく密着過保護になりやすい母子の関係を引き離す必要があります。その時父性性が求められるのです。母親が子供の方ばかり見ていて周りの出来事や様子が目に入らないといったことのないよう、夫婦間の対話を父親がまず率先して行

うべきなのです。

しつけの要件としての父性は、夫婦の話し合いと協力無しには有り得ないと私は確信しております。

今回は、続発する少年凶悪犯罪を父性性不全という観点から考えてみました。勿論かかる少年問題がすべて親のしつけに起因するといっているつもりはありません。教育や地域環境等社会心理的側面に併せ、ストレスや栄養の偏りが身体に及ぼす影響性など生理的側面も含めた多角的な究明と対策が必要なのはいうまでもないことでもあります。



一九三五年秋田生まれ。  
早稲田大学文学部哲学科卒業。  
心理学専修。  
自衛隊中央病院精神科、航空自衛隊岐阜病院などを経て、現在は東海女子短期大学児童教育学科心理学コース教授。なごやメンタルクリニック心理カウンセリング担当。

## ● 野鳥凶鑑 ●



### 【オオヨシキリ】

夏鳥として渡来し、主にアシ(ヨシ)原に生息する。雄は、一日中「ギョギョ ギョギョシ ギョギョシ キキキ…」とやかましく鳴く。古くは「行々子」(ぎょうぎょうし)と呼ばれたが、騒がしいことを「ぎょうぎょうしい」というのは、この鳥の名に由来している。

撮影 (財)日本野鳥の会  
岐阜県支部長 大塚之稔